

電子ジャーナル2005

付録：なぜ購読雑誌が減っていくのか

電子ジャーナル最新情報

2005年に追加された電子ジャーナルのうち、主なものは次のタイトルです。

- American Journal of Physiology (大森・大橋限定 1898-1997: 最新号まで可能になる予定)
- New England Journal of Medicine
- Nucleic Acids Research (1996-)
- CellPress 社発行9タイトル
- Lippincott Williams & Wilkins 社発行100タイトル

これらの電子ジャーナルを含め、現在東邦大学で利用可能なものは下表のとおりです。

発行元	タイトル数
American Chemical Society (last 5 years)	28
American Medical Association	9
Cell Press	9
BMJ (all issues)	28
LINK (Springer)('96+)	270
Lippincott Williams & Wilkins	100
ScienceDirect (Elsevier)('98+)	1,800
Synergy (Blackwell)(all issues)	340
InterScience (Wiley)('97+)	170
無料公開誌を含め、当センター電子ジャーナルのタイトル	3,582

詳しいリストや、使い方はセンターホームページをご覧ください。

<http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/ej/>

なぜ購読雑誌が減っていくのか

学術雑誌の将来 - 第300回レフコン

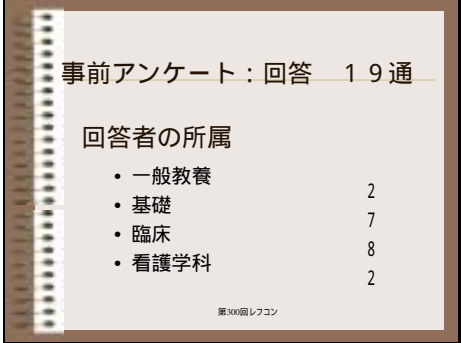
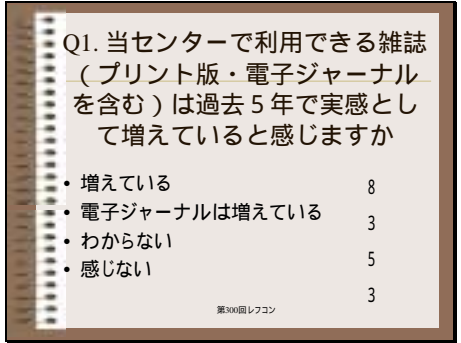
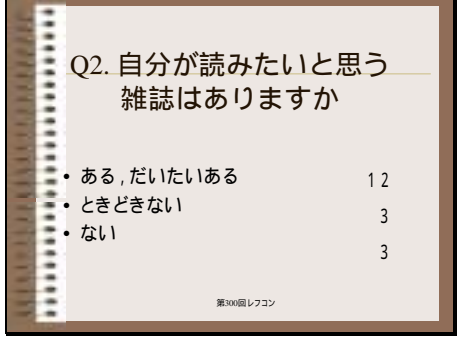
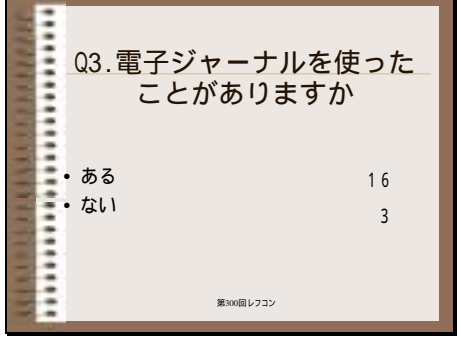
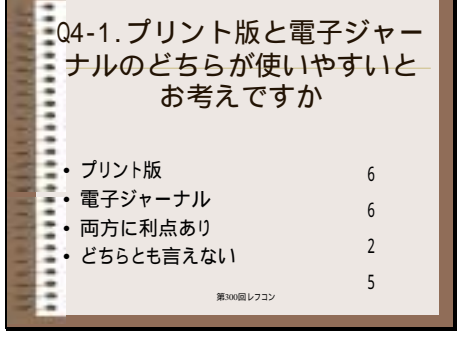
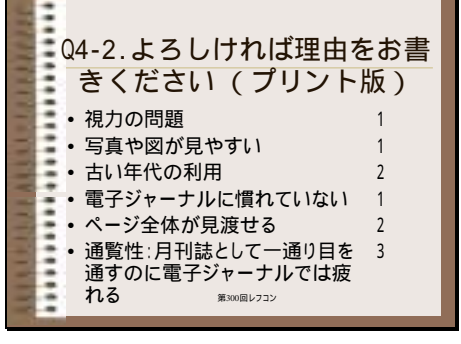
医学メディアセンター(大森、大橋、佐倉、看護学科)では毎月1回“レフコン”と呼ばれる勉強会を行っています。“レフコン”は“レファレンス・コンファレンス”の略、“レファレンス”とはセンターに寄せられる様々な質問のことで、つまり事例検討会といったところです。

この勉強会の中で、雑誌の購入や選定について、センター利用者へもっと説明する必要があることが確認されました。そこで、12月のレフコンがちょうど第300回目にあたるため、公開の形をとって説明させていただくことにしました。どんな項目について説明するかを話し合い、皆様にはメールやホームページでお知らせする

と同時にアンケートへの回答をお願いし、簡単な意識調査を行いました。

このアンケートには20人近い方から回答をいただいたのですが、結果的に当日利用者で参加された方はいらっしゃいませんでした。そのため、当日用意した資料をブックマークシリーズとしてお届けします。

日頃センターへ寄せられる皆さんからの質問への回答としてもぜひ目を通していただきたい資料です。ご覧になっての感想、質問などをお寄せいただければうれしく思います。

<p>スライド 1</p>  <p>事前アンケート：回答 19通</p> <p>回答者の所属</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般教養 2 ・ 基礎 7 ・ 臨床 8 ・ 看護学科 2 <p>第300回レファコン</p>	<p>スライド 2</p>  <p>Q1. 当センターで利用できる雑誌 (プリント版・電子ジャーナルを含む) は過去5年で実感として増えていると感じますか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 増えている 8 ・ 電子ジャーナルは増えている 3 ・ わからない 5 ・ 感じない 3 <p>第300回レファコン</p>
<p>事前アンケートはメール、ホームページおよび閲覧カウンターで行いました。19名の方から回答をいただき、所属の内訳は上の通りでした。大橋キャンパスからいただいた5通の回答も含んでいます。</p>	<p>Q1. ではプリント版、電子ジャーナルに関わらず、雑誌が増えていると感じるか尋ねています。回答は選択肢ではなく、記述式にしました。実感としては増えているととらえている方がやや多いです。</p>
<p>スライド 3</p>  <p>Q2. 自分が読みたいと思う雑誌はありますか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ある、だいたいある 12 ・ とときどきない 3 ・ ない 3 <p>第300回レファコン</p>	<p>スライド 4</p>  <p>Q3. 電子ジャーナルを使ったことがありますか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ある 16 ・ ない 3 <p>第300回レファコン</p>
<p>Q2. では利用したい雑誌があるか尋ねています。12人の方が ある、だいたいあると答えています。</p>	<p>Q3. 電子ジャーナルを使ったことがあるかどうかでアンケートの結果も左右されると考えたため、この問いを設けました。ほとんどの方が使っていらっしゃいます。</p>
<p>スライド 5</p>  <p>Q4-1. プリント版と電子ジャーナルのどちらが使いやすいとお考えですか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プリント版 6 ・ 電子ジャーナル 6 ・ 両方に利点あり 2 ・ どちらとも言えない 5 <p>第300回レファコン</p>	<p>スライド 6</p>  <p>Q4-2. よろしければ理由をお書きください (プリント版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視力の問題 1 ・ 写真や図が見やすい 1 ・ 古い年代の利用 2 ・ 電子ジャーナルに慣れていない 1 ・ ページ全体が見渡せる 2 ・ 通覧性・月刊誌として一通り目を通すのに電子ジャーナルでは疲れる 3 <p>第300回レファコン</p>
<p>プリント版と電子ジャーナルのどちらが使いやすいかの回答は両者拮抗した結果が出ました。</p>	<p>プリント版が使いやすい理由を挙げていただきました (複数回答あり)。</p>

Q4-2. よろしければ理由をお書きください (電子ジャーナル)

- | | |
|----------------|---|
| • 早さ・利便性 | 4 |
| • センターに行かなくてよい | 7 |
| • 24時間可能 | 2 |
| • プリントしなくてよい | 2 |
| • コピーより安価 | 1 |
| • ダウンロードできる | 1 |

第300回レフコン

スライド 7

電子ジャーナルが使いやすい理由を挙げていただきました (複数回答あり)

Q5. 価格を知っていますか

- | | |
|-------|----|
| • はい | 6 |
| • いいえ | 13 |

第300回レフコン

スライド 8

価格を知っていますか、の質問には6名の方が「はい」と答えられましたが、ぜひスライド 10 以降をご覧ください。

Q6. プリント版減少の理由を知っていますか

- | | | |
|-------|------|---|
| • はい | スペース | 3 |
| | 価格 | 5 |
| | 迅速性 | 1 |
| • いいえ | | 8 |

第300回レフコン

スライド 9

プリント版減少の理由を知っていますか、の問いには5人の方が価格と答えられました。3名の方が挙げてくださったスペースは確かに大きな問題ではありますが、購入中止の第一の理由は価格です。

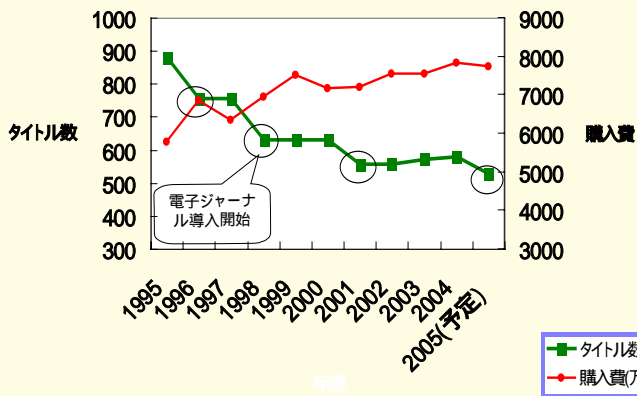
スライド 10

医学メディアセンターでのプリント版購読タイトル数と購入費の変化を表したグラフです。外国雑誌の価格は毎年10%程度の値上がりが続き、雑誌購入費がメディアセンターの資料費全体に対して占める割合が大きくなってきています。

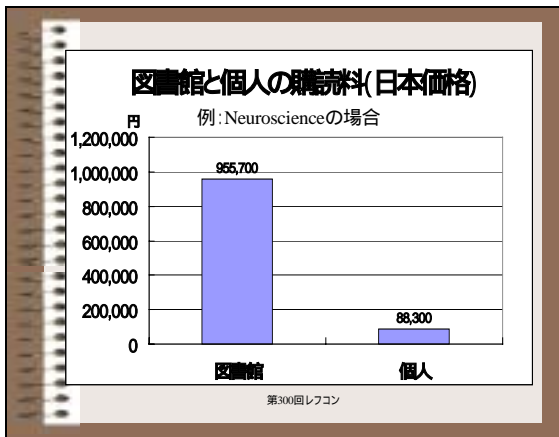
- 1996年：資料購入費の76%となりました。このため、購読誌見直しのアンケートを行い、127タイトルを削減しました。
- 1998年：再度アンケート実施後、126タイトルを削減しました。
- 1999年：購読中止タイトルの代替として、電子ジャーナルを導入しました。
- 2001年：雑誌購入費は資料費全体の80%を超え、アンケート実施後74タイトルを削減しました。
- 2004年：雑誌価格の値上がりは止まらず、医学メディアセンター(大森、大橋、佐倉)と習志野メディアセンターで重複する57タイトルを2005年より中止します。

このように、予算は現状維持、あるいは増額していますが、雑誌の値上がり率にはついていけないために、タイトル数は激減しています。

プリント版購読タイトル数と購入費の変化



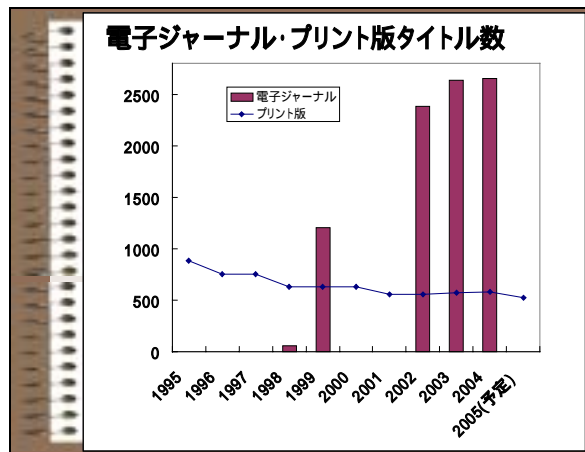
スライド 11



前のスライドで示したように、8,000 万円の購入費で581 タイトルしか雑誌が買えないとは、ひどく少ないと思われるのではないのでしょうか？ 皆さんが雑誌を購読する価格なら、もっとたくさん買えるはずと思いませんか？

実は個人と機関では購読価格が異なることが多いのです。グラフは Neuroscience 誌の例ですが、10倍以上の差があります。

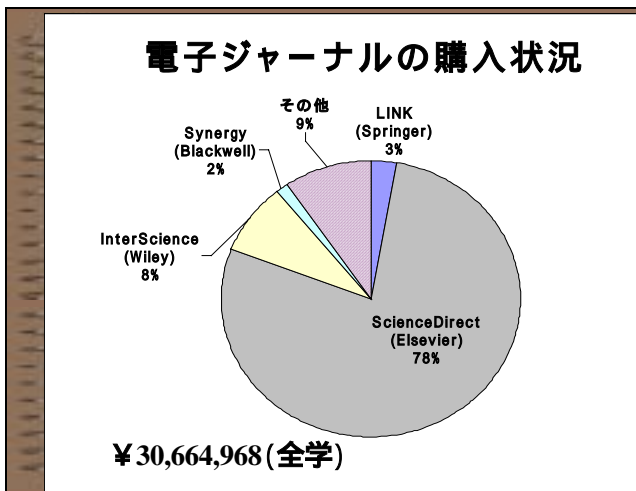
スライド 12



このように減っているプリント版に対し、1998年から導入した電子ジャーナルは2,500 を超えるタイトルが利用できるようになっています(2000年~2001 年は算出が難しいためグラフにありません)。

そのために利用者の皆様の実感として雑誌は減っていないのだと推測されます。

スライド 13

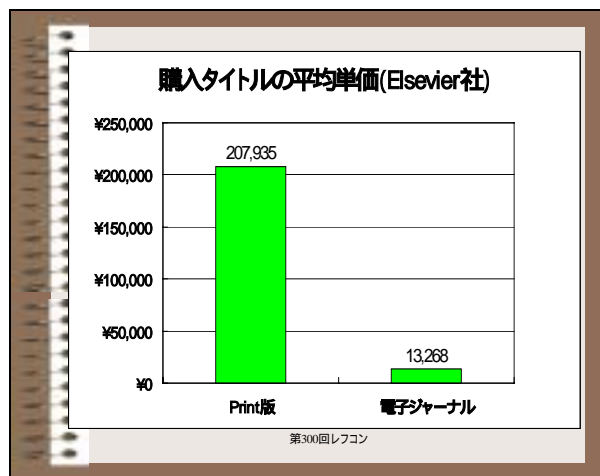


電子ジャーナルの購入費は、医学メディアセンターと習志野メディアセンターを合わせて約3,000 万円の費用を支払っています。前掲のプリント版とは別です。

電子ジャーナルは無料と思われたり、プリント版を購入していれば無料と思われたりすることがありますが、2004 年約2,600 タイトルの電子ジャーナルをこの価格で購入しています。

また、出版社(パッケージ)の内訳は円グラフの通りです。出版社ごとのタイトル数もほぼ価格に比例しています。

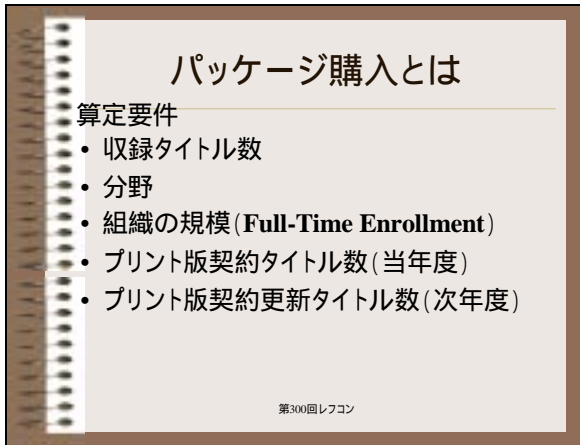
スライド 14



プリント版と電子ジャーナルの平均単価を算出しました。購入金額をタイトル数で割っています。Elsevier 社の例です。

プリント版の平均単価は207,935 円、電子ジャーナルの平均単価は13,268 円です。一見すると電子ジャーナルの平均単価がかなりお安くなっていますが、これは次に説明するパッケージ購入をしているため、電子ジャーナルでも単独購入するとプリント版とあまり価格は変わりません。

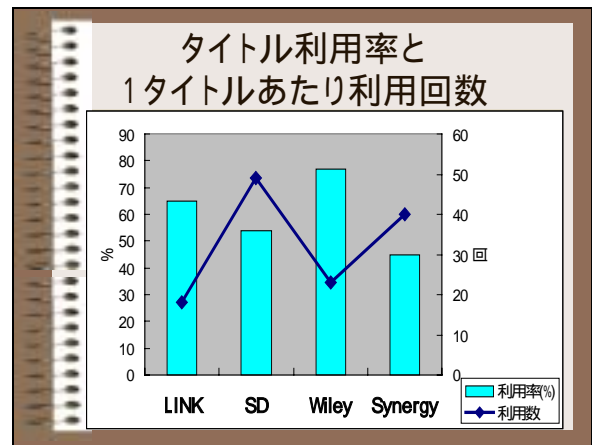
スライド 15



電子ジャーナルのパッケージ購入とは、出版社によって提示されるまとめ買いのことで、購入額は上の通り、収録されているタイトル数や分野によって異なりますし、また購入する側の組織の規模（教職員や学生の数等）やキャンパスの数でも異なります。それに加えてプリント版をどれくらい買っているか、さらにどれくらい契約を更新するかということも算定され、購入側にとっては非常に制約の多い購入形態です。

なお、このパッケージ購入も複数の大学図書館等で購入するコンソーシアム契約によって、価格を抑える努力をしています。

スライド 16

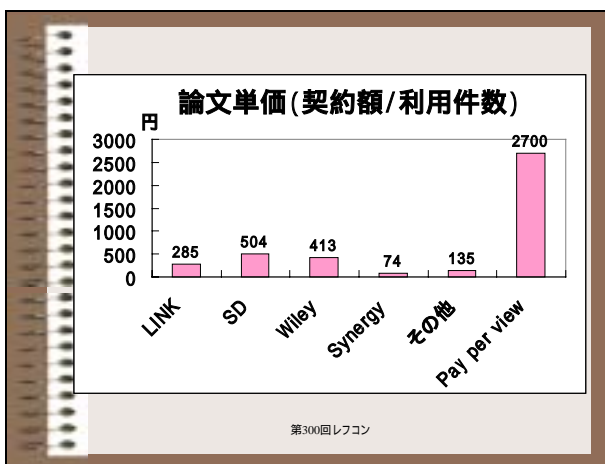


パッケージ購入によって電子ジャーナルをまとめ買いしているため、使われないタイトルも出てきます。棒グラフはパッケージごとの利用率を算出したものです。最近1年間に1度でも使われた電子ジャーナルの割合です。1度しか使われなかったタイトルも、何千回と使われたタイトルも含んでいます。Wileyの電子ジャーナルは8割近くが使われており、Synergyでは5割を切っています。

折れ線グラフは1タイトルあたり利用された平均回数を算出しました。

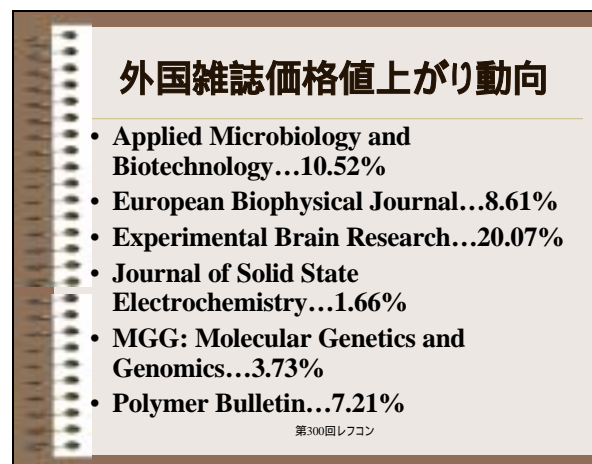
二つのグラフから、パッケージの利用率が低いからといって、利用されていないわけでもなさそうです。

スライド 17



このグラフはパッケージ購入額を最近1年間の利用論文数で割った金額です。パッケージごとに、上のような単価でご利用いただいていることとなります。比較のために、契約なしにそのとき払いで使える利用形態の論文単価（ここではElsevier社・Pay per View）を並べてみました。

スライド 18



外国雑誌価格値上がり動向のリストです。これはプリント版の価格ですが、電子ジャーナルの価格もプリント版の価格に連動すると考えられます。パッケージ購入による論文単価ではとてもお得に見える電子ジャーナルですが、このまま価格があがったら、今のように多くの電子ジャーナルが利用できる状態はいつまでもつでしょうか・・・？

スライド 19

HighWire Press
<http://intl.highwire.org/>

- 米国スタンフォード大図書館が母体
- 1995年に電子出版プロジェクトとして発足
- 主に既存の学会系雑誌の電子化をサポート
- プリント版よりも低価格

第300回レフコン

スライド 20

BioMed Central
<http://www.biomedcentral.com/>

- 英国Current Science社
- 2000年に活動開始
- オープンアクセス誌

第300回レフコン

スライド 21

Public Library of Science(PLoS)
<http://www.publiclibraryofscience.org/>

- 最新の科学・医学情報への制限のないアクセス
- 科学者を中心に2000年に設立
- PLoS Biology, PLoS Medicine (オープンアクセス誌)

第300回レフコン

スライド 22

Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition (SPARC)
<http://www.arl.org/sparc/>

- 1998年Association of Research Librariesが設立
- 低価格・高品位の雑誌出版と新しい学術コミュニケーションの創造が目的
- 自らは出版者ではなく、パートナーをサポート
- BioMed Central, PLoSと提携

第300回レフコン

スライド 23

オープンアクセス

- 「インターネット上で自由に入手でき、閲覧、ダウンロード、配布、印刷、検索、全文へのリンク、索引作業のための利用、データのソフトウェアへの転送、他の合理的な用途で利用することを、財政的、法的、および技術的障壁なしに、誰にでも可能とすること」
- 利用者のニーズを優先
- 出版費用を著者が負担

機関リポジトリ

第300回レフコン

スライド 24

Free Access

- DC Principles
- 従来の経済モデルを継承して出版費用を確保
- 「出版費用は原稿を投稿する研究者や助成機関でのみ賄われるべきものではない」

第300回レフコン

雑誌の価格が高騰しているのは商業出版社のものであり、彼らは電子ジャーナルになっても制作コストは変わらないため価格は下がらないと説明していますが、逆に電子配信により価格高騰を解決できると考えた非営利団体の主なものがスライド 19~22 です。

このような動きの中で学術雑誌の新しい出版モデルであるオープンアクセスやフリーアクセスが提示されています。前者は研究者や助成機関によって費用を負担し、非営利の学術出版社や団体の宣言 (DC Principles) により運営されている後者は購読者にも費用負担を求めている違いはありますが、どちらも研究者の学術コミュニケーションが営利に左右されない点を重視しています。

雑誌を利用するときや論文を投稿するときに、雑誌の背景を知り、今後の雑誌選定についてご一緒に考えていただければ幸いです。